

西宮夙川RC光造様、奥村会員ゲストの泉規子様、ようこそいらっしゃいました。

先週の例会はお休みを頂きました。

週報を拝見させていただき、多田 昭宏副会長の八重桜のお話は表現力が豊かで内容の濃い、素晴らしいお話だと思います。

せっかくの休日だったんですが、家内と共に熱を出し、ずっと寝ておりましたが、女性は強いというのを実感いたしました。また松本源也さんから甲子園のチケットをプレゼントしていただいたのですが、見に行けず残念でした。

私の高校野球の体験ですが、大阪大会の最後の予選ベスト16で興国と対戦し、8回表まで7対3とリードしていたのですが、二死一、三塁からサード線に打球が飛び三塁塁審はファールのコール。しかし主審がフェアのコール。

最初は走者も打者もファールだと思い走らなかったのですが、主審のフェアのコールを聞き走りだしました。1点を失いましたが、その後タイムがかかり、マウンドの後ろで審判が協議しており一塁塁審もファールという声が聞こえていましたが、主審が責任審判ということでフェアの判定となりました。

それから試合は流れが変わるといふか、私の力不足もあり、連打を浴び、7対5となったところで降板となり、勢いは完全に相手側になり、延長10回で敗れました。

野球は二死からとよく言われた言葉です。

いまは審判が判定、ルールがかわり、ベースの前の打球の判定責任は主審、ベースの後の打球は塁審ですからサード線の打球の判定責任は塁審となり、それに主審も合わせます。いまは主審と塁審の判定が異なることはありません。

それから余談ですが、大学4年のとき、母校の関大一高に素晴らしい投手が入ってきたということで、大学の練習が終わってから、高校の練習を手伝っていたときに、その投手とバッテリーを組んでいた子がなんとあの主審の息子でした。

顔が親にそっくりですぐに分かり、私たち同期3人は冗談で「お前の親父のせいで負けたんや。知ってるか。」と聞くと、「知ってます。」という返事でした。

彼らの年代は甲子園に出場できませんでしたが、大阪大会ベスト4まで進出しました。いま振り返りますと、球審の人が息子に私たちの試合のことを話すということは、印象に残った試合だったのではないかと想像できます。